

小中一貫教育目標 ～みよし結芽人～

「高い志をもち 夢と目標の達成に向けて
挑戦する三和の子どもの育成」

《三和で育成する子ども像》

- ・学びを生かし課題を解決する子ども
- ・ともに考え伝え合う子ども
- ・自ら学び続ける子ども

自己実現

中学校教育目標

「志高く 未来を拓く」
～「将来の夢の実現」に挑戦する生徒～

小学校教育目標

「自分らしさを育てる」
自分らしさを育てる子
～気付く・伸ばす・磨く～

「自己調整」

「自己表現」

保育所

小学校

中学校

家庭の教育力・地域（学校運営協議会）の教育支援

三和中学校区研究主題

「ともに学び合いながら理解を深め、主体的に学ぶ子どもの姿をめざして」
～「課題発見・対話・振り返り」の工夫を通して～

《身につけさせたい資質・能力》

学年	小1・小2	小3・小4	小5・小6・中1	中2・中3
知識を生かし深める力	問い 物事や事象への驚きや疑問をもつことができる。	驚きや疑問をもち、理解するための知識や情報、技能等を学び取ろうとすることができる。	驚きや疑問をもち、理解するための知識や情報、技能等を自ら獲得しようとすることができる。	驚きや疑問をもち、既知の知識や情報、技能等を用いて、より深い疑問を持つことができる。
	活用 学んだことを活用して学習したり、生活に役立てたりすることができる。	概念的に形成された知識・技能を生活や学習の中で活用し、課題解決することができる。	思考・判断・表現を通じて概念的に形成された知識・技能を活用し、見通しをもって課題解決することができる。	概念的に形成された知識・技能を活用し、構想を立てて課題解決したり、評価・改善したりすることができる。
	概念的 生活や遊び、体験活動から得た知識などを生かして気付きや考えをもつことができる。	生活や遊び、学習、体験活動から得た知識などを生かして知識を形成することができる。	生活や遊び、体験活動から得た知識などを関連付けて知識を形成することができる。	学習と生活とのつながりを意識し、自らの生活を豊かにする方法を考えることができる。
共に考え伝え合う力	思考・判断 身の回りのことや体験したことから情報を集め、比較し、特徴をとらえることができる。	物事を捉える視点を持ち、情報を比較・分類・関係付けながら特徴や傾向を捉え、目的に合わせて考え、判断することができる。	物事をとらえる視点を持ち、目的や意図に応じて情報を比較・分類、関係付けたりしながら根拠をもって考察することができる。	情報を効果的に収集し、比較・分類、分析・解釈したりしながら、根拠をもって多面的・多角的に考察することができる。
	協働 他者の考えと自分の考えを比較しながら話し合い等を行うことができる。	他者と協力して、多様な考えを出し合い、課題解決に向けた取組を行うことができる。	他者と協力して、多様な考えを出し合い、課題解決に向けて協働的に活動することができる。	自らの意見を提案しながら他者と協力し、課題解決に向けてよりよく協働的に活動することができる。
	表現 言葉を適切に用いて、気付きや考え、よさなどを、順序を考えながら伝え合うことができる。	言葉を適切に用いて、伝える相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら伝え合うことができる。	相手や目的に応じて、言葉を適切に用い、事実と意見を区別し、根拠や立場を明確に表現し伝え合うことができる。	相手や目的に応じて、言葉を適切に用い、自分の解釈を加えて説明・論述し、実現性を踏まえて議論することができる。
自ら関わり学び続ける力	自己調整 自分から人・もの・ことと関わり合い、互いに楽しく活動しようとしている。	他者と関わり合う中で、互いの気持ちや行動を理解し、関係を深めていこうとしている。	他者と関わり合う中で、感情や行動をコントロールしながら、互いの関係を深めていこうとしている。	他者と関わり合う中で、相手や場面を考えて自らの感情や行動をコントロールしながら、互いの関係を深めようとしている。
	自己調整 学んだことのよさや楽しさ、自己の成長を感じ、さらによりよくしようとするすることができる。	学習計画を立てたり、学習内容・方法について振り返ったりしながら、自己の成長を自覚し、自らの学びを評価することができる。	見通しをもって学習計画を立て、学習内容や思考過程、学習方法の観点をもって振り返ったりしながら、学びを評価し、改善することができる。	仮説をもって学習を構想し、学習内容や過程、方法などを振り返りながら評価・改善したり、新たな問題を見出したりすることができる。
	自己実現 自分で決めたことをやり切ろうとする。	将来の夢や希望、憧れをもち、目標に向けて粘り強く取り組もうとする。	自己理解を深め、将来の夢や希望、憧れをもち、目標に向けて粘り強く取組もうとする。	自分の適性について考え、将来の夢と関連づけ、目標に向けて、取組を継続しようとする。

「課題発見・対話・振り返り」の工夫を通じた授業改善について

児童生徒が体験的な活動を通して課題を見出し課題解決のプロセスを自分で進めるとともに、教師のファシリテーションにより児童生徒の意見発表・意見交流が活性化し、主体的・対話的に学ぶ児童生徒が育まれる。

【発達段階における重点】

○小学校段階では「学習の見通しを立てたり、学習活動や思考のプロセス等を振り返って、客観的に意味付けたり、成果や成長を自覚したりして、自らの学習を自ら調整できる学力（自己調整力）」を育むことに重点をおく。

・児童自身が「自ら問いを創り出す」授業、「多彩な交流活動をする」授業、「価値付ける」授業。

○中学校段階では「他者と多様な考えを出し合い、比較、共感、選択、統合するなど、課題解決に向けて協働的な活動（協働）」を基に、「新たな知識と既存の知識や経験、他者の考えと関連付けたり、組み合わせたりして、実生活で活用される基本的な概念的知識を深く理解していく学力」を獲得し、「自分自身を理解し、将来の夢や希望、憧れをもち、目標に向けて粘り強く取り組む児童生徒（自己表現）」を育むことに重点をおく。

・生徒自身が「課題を発見する」授業、「仮説を立て、自らの考えを深める」授業、「意見交流によって、考えを深化させる」授業のこと。



「課題発見・対話・振り返り」において大切にしたいこと

指導者は問いに対する答えを児童生徒同士の対話から導き、そこに至る過程において個々の考えを広げたり深めたりするために、以下に示す4つのスキルを意識しながら授業を実践していく。

【4つのファシリテーションスキル】

1. 場のデザインのスキル【共有】～場をつくり、つなげる。

○目的・目標を設定し、合意する。 ○話しやすい雰囲気を作る。 ○進め方を設定する。

2. 対人関係のスキル【発散】～受け止めて、引き出す。

○傾聴で安心感・信頼感を与える。 ○質問で意見を引き出す。

○やわらかい主張で話し合いを方向付ける。

3. 構造化のスキル【収束】～かみ合わせて、整理する。

○あいまいな主張を明確にする。 ○多彩な視点から議論する。 ○議論を描く。図解を活用する。

4. 合意形成のスキル【決定】～まとめて、分かち合う。

○対立をチャンスと捉える。 ○適切な対立解消方法を選択する。 ○言葉の奥の本音を探る。

【参考】Nits 教職員研修の手引き(2018)

《家庭と学校での教育効果を高める児童・生徒との約束》

三和小・中「五つの約束」

○9年間を通して、小中共通の児童生徒に身に付けさせたいこと。

○「全国学力・学習状況調査」等の課題をもとに、家庭での生活習慣を土台に社会性を身に付けさせる。

【学校で】

当たり前になるまで
言動を認め
努力を褒め
身に付けた姿を喜ぶ



思いやり
あいさつ・返事
身だしなみ
姿勢正しく
時間を守る



【家庭で】

- ①早寝・早起き・朝ごはん・あいさつの習慣をつける
- ②家庭学習を毎日する。(自主学習・読書)
- ③家庭での生活のルールを決める
- ④家族との対話を大切にする
- ⑤家族の一員として手伝いをする

【職員連携】

- 定期的な推進委員会
- 授業交流（研究授業・授業参観）
- 学力調査分析・交流

【PTA連携】

- 保護者への情報発信
- 家での5つの約束
(家でのルールを徹底する)

【地域連携】

- ゲストティーチャーを招いての地域学習
- 地域ボランティアの参加